

学校だより

さいたま市立いろどり学園小学部・中学部
令和8年6月1日発行

第3号

見えぬけれども あるんだよ

校長 米玉利 優子

「おはよう。なんかドキドキするね。」「やっと会えたね。一緒に座ろう。」令和8年5月29日(金)、いろどり学園小学部・中学部の開校式では、入学式とは明らかに違う景色が見られました。登校した子どもたちが声を掛け合う姿、先生とハイタッチをする姿、少し恥ずかしそうに笑う姿、声にならなくてもそっとうなずく姿…この2か月で創り上げた様々な「つながり」がはっきりと見えたのです。多くの方に感謝を伝える開校式にしたいと、6キャンパスをオンラインでつなぎ、盛り上げ隊の子どもたちが中心となって各キャンパスの紹介動画や掲示物の作成をしてくれました。まさに、子どもたちがつくり上げたあたたかい開校式となりました。オンラインでつながっていた仲間に実際に会えた喜びを体中で表現している姿、人の話を目と耳と心で真剣に聴いている姿等を見ながら、実体験の大切さを改めて感じるとともに、子どものもつ無限の可能性を感じる、とても嬉しいひと時となりました。盛り上げ隊や開校式の司会に立候補してくれた子どもたち、各キャンパスの鍵をもらう役を引き受けてくれた子どもたちは、緊張のあまり、やめておけばよかったかなと思う瞬間があったかもしれません。だからこそ、挑戦してみようと思えたその「心」に大きな拍手を送ります。いつか、その挑戦こそが、自分自身を成長させたのだと気づく時がくと確信しています。そして、その日には必ず伝えたいと思います。「あなたの勇気が、いろどり学園の歴史をつくる大切な第一歩になったよ。勇気をもって『考動』してくれて、本当にありがとう。そして、あなたのその姿こそが、いろどり学園の育てたい子ども像になったのだよ。」と…

人として本当に大切なものは目には見えないと、私は思っています。暑い日も寒い日も、いろどり学園の工事をしてくださった方々の「思い」や「願い」、毎日お子様のことを考えてくださる保護者の「愛情」、開校式で子どもたちが見せてくれた「人と人のつながり」や「勇気」「感謝」「やさしさ」は目には見えません。だからこそ、見えないものをしっかりと見つめていきたい、大切にできる人間でありたいと痛切に感じています。そして、いろどり学園の子どもたちには、「見えぬけれども あるんだよ」という言葉を胸に、人として大切なものを見つめ続け、育んでいける人間になってほしいと心から願っています。命、心、夢、希望、思いやり…目には見えないものを大きく育て、一人ひとりが輝くいろどり学園にしたいと心から願い、精進してまいります。

いろどり学園が、子どもたちの安心できる居場所となり、人として大切なものを育てられる学校となることが、開校式に参列してくださったご来賓の方々をはじめ、いろどり学園の開校に携わってくださった皆様やいろどり学園に入学してくれた子どもたち、保護者の皆様への御礼になるのだと信じ、教職員一同、心を一つに懸命に努力してまいります。今月は個人面談もごさいます。保護者の皆様と「子どもの共有方法」等、見えないものを共に見つめ、語り合える大切な時間にしていきたいと考えておりますので、引き続き、あたたかいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。